

令和5年度第1回仙台市協働まちづくり推進委員会 議事録

○日 時：令和5年7月24日（月）15：00～17：05

○場 所：仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター

○出席委員：高浦康有委員長、佐々木綾子副委員長、石田祐委員、岩間友希委員、加藤隆委員、小林幸司委員、佐伯恵子委員、庄子康一委員、傳野貞雄委員、春由美委員

○欠席委員：高橋由佳委員

○事務局：市民局長、市民局次長、市民局次長兼市民活躍推進部長、市民協働推進課長、地域政策課長、市民活動サポートセンター長、市民活動推進係長、他担当職員

○次第

1 開会

2 議事

- (1) 令和4年度協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況について
- (2) 仙台市市民活動サポートセンターの現在の機能について

3 その他

4 閉会

○会議内容

1 開会

[事務局（市民活動推進係長）]

- ・石田委員がリモート参加となる。
- ・委員 11 名中、本日は 10 名が参加。出席が過半数を超えており、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第 4 条第 2 項の規定に基づき、会議は成立する。
- ・以降の進行は高浦委員長にお願いしたい。

[高浦委員長]

- ・議事録署名人については、出席者の中から五十音順で指名したい。今回は佐々木委員にお願いしたい。
(佐々木委員 了承)

[事務局（市民協働推進課長）]

- ・資料 1 に基づき報告

[高浦委員長]

- ・審議内容について意見質問はないか。
(意見質問なし)

2 議事

(1) 令和 4 年度協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況について

[高浦委員長]

- ・本日の委員会は公開ということで良いか。
(異議なし)

[事務局（市民協働推進課長）]

- ・資料 2 に基づき報告

[高浦委員長]

- ・前年度に比べて約 1 割の事業数増加という点から、市民協働はますます進んでいるなという印象を受ける。
- ・市民協働事業の総事業数は、数年の傾向として、新型コロナウイルス感染症拡大前と比較しても増加しているのか。

[事務局（市民協働推進課長）]

- ・令和 3 年度と比較して終了した事業が 40 事業あるが、新型コロナウイルス感染症拡大の理由ではなく、計画的に事業を終了したものであった。終了した事業を差し引いても、令和 4 年度は 28 事業の増加となっており、令和 3 年度と比較すると市民協働が多く行われたものと考える。

[佐々木副委員長]

- ・市民協働事業数の 1 割増は素晴らしい。事業数増加の要因がわかれれば教えてほしい。

[事務局（市民協働推進課長）]

- ・要因について個別にヒアリング等はしていないが、感染症対策などが浸透し、市役所全体としても事業実施を工夫した結果であると考える。

[岩間委員]

- 多くの事業が動いており、C評価の事業数の減少も評価したい。また、公金を使って事業を行っていることから、目標を数字で掲げることの必要性も感じる。
- 一方で、評価が横ばいのことから、もう少し評価を引き上げていくための何かしらの評価基準を設けられないだろうか。例えば、定性的な評価として、助成金を採択した団体は目標何件に対し何件交付したというのと同時に、交付された先の団体は今後継続していく意欲が湧いたかどうかなど。

[事務局（市民協働推進課長）]

- 今年度は事業の時点修正を予定しているため、目標値の修正や目標のあり方についても今のご意見を踏まえて検討したい。

[高浦委員長]

- 評価が「一」となり、A、B、Cがついていない事業も多く見受けられる。定性的にしか評価できないのか、しかしそうでもないものもある。必ずしもA、B、Cをつけなくてもいいのか。

[事務局（市民協働推進課長）]

- このプランの目標を掲げる際に、数値として定量的に計ることができるものと主に目標設定したという経過があり、目標設定したものにはA、B、Cの評価を行っている。数値目標では計れない、もしくは計りにくいようなものについては目標値を設定しない形で今のプランを策定したため、評価も「一」としている。

[佐々木副委員長]

- A、B、Cという評価結果が出た部分について、目標にまで至らなかった事業は原因があると思う。振り返りをしていくことが新たな事業にチャレンジすることや成功に導くためには大切である。例えば、事業者や担当課の方と振り返りみたいなことは行っているのか。

[事務局（市民協働推進課長）]

- この報告書には掲載していないが、ヒアリングによって各事業担当課の振り返りの機会は設けており、目標に至らなかった理由や代わりに行った工夫、もしくは今後どういった工夫をするのかを確認している。

[春委員]

- 市民協働事業数が306事業と令和3年度から1割弱増加したことについて、新しくまちづくりに関係する事業が増えていると伺った。以前から継続的に取り組まれている事業もあるかと思うが、具体的にどのような事業が増えているのか教えてほしい。

[事務局（市民協働推進課長）]

- 本日の資料では明確にお示しできていないが、一例として37ページ目の「若者が活躍するまちづくり事業」の中の、事業番号6～12「ユースチャレンジ！コラボプロジェクト」がある。これは当課で実施している事業で、若者団体の提案をもとに仙台市と協働で実施をするというプロジェクトである。令和3年度は採択件数が2件だったものが令和4年度は7件であった。これは昨年度の推進委員会でもご議論いただいた内容で、若者が活躍するまちづくりを推進していくために行った意識調査も踏まえ、若者に対して事業制度を周知し認知度を高めた結果、提案数も採択数も大幅に増加した。

(2) 仙台市市民活動サポートセンター（略称：サポセン）の現在の機能について

[事務局]

- ・資料3-1に基づき報告（市民協働推進課長）
- ・資料3-2に基づき報告（市民活動サポートセンター長）

[高浦委員長]

- ・多様な協働の担い手の育成のため、若者や事業者含めそれぞれの主体の交流促進を促し、情報発信の手伝いなどの実施状況を理解できた。十分、網羅されている印象である。また新しいソーシャルメディアも活用いただいている。
- ・ただ、事務用ブースはもう少し活用できればなお良い。ブースの入居者団体の審査に関わっているがやや低調な印象を受ける。今は事務スペースを構えずにオンラインでもある程度業務をこなせる環境ではあるが、様々な団体が物理的にこの建物に集まり、普段付き合えない団体と分野を越えて繋がりが生まれてくるセレンディピティを創出する場としてもっと繋がっていければよい。そのための様々な仕掛けの必要性も感じる。

[小林委員]

- ・いつもサポセンを利用しているが意外と知らないことも多くあった。2点伺いたい。
- ・1点目は事業数がとても多い印象だが、この運営自体を行うスタッフと各事業を行うスタッフは全く別に切り離されているのか、それともどちらも担っているのか。
- ・2点目は貸室等を借りる際、他の仙台市の公共施設は市民利用施設予約システムにありネット予約が可能だが、なぜサポセンは入っていないのか。市民利用施設予約システムで他の施設と一緒に見られると利用者も増えると思うが、システムを導入できない理由があるのか。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・事業と運営のスタッフは、一部の受付メインの非常勤スタッフを除き、基本は両方を担っている。メリットは普段受付の際に顔を合わせて利用者のニーズを把握しやすいことであり、デメリットはスタッフの負担が大きくなってしまうことである。
- ・市民利用施設予約システムを導入していない理由としては、システムでの申し込みだと利用目的を詳細に確認できない点にある。
- ・サポセンは原則市民活動の支援のための施設であり、現在は、市民活動での利用であることを申込時にヒアリングで確認し、申し込みを進めている。利用予約システムを導入すると、利用目的を詳細に確認しないまま申し込みしてしまうが、そういうったケースでは、利用前に窓口で改めて利用目的を確認する際に、市民活動を目的とした利用であると判断できない場合、利用を断らざるを得ない可能性がある。
- ・しかし、運営側としても市民利用施設予約システムを導入した方が、市民の利便性は上がるのではないかと考えている。多様な主体への利用をより促進するためには、料金体制等、今後検討が必要なものもあると認識している。

[高浦委員長]

- ・市民活動のサポートが目的であるため、営利活動の場合は会議室が使えないという認識で良いか。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・お見込みのとおり。ただし、地下シアターだけは料金体系が会議室等と異なり、営利目的の利用料金も設けているため、文化芸術の振興等の目的でも利用可能である。

[岩間委員]

- ・2点意見がある。1点目は、委員の皆さんにはサポセンを利用した経験もあるとは思うが、写真がない資料であり理解が深まらない部分も正直ある。実際の事業が委員にもわかるような

機会を提供いただきたい。そうすればもっとこういうやり方があるのではないかとコメントがしやすないと感じた。

- ・2点目は貸室について。私自身も郊外の商業施設の中で交流スペースを運営しており、そこは市民活動であるか否かを問わず、誰でも利用可能な場所となっている。利用者の方に、私達の交流スペースを選択せず、サポセン利用を選択した方にヒアリングをしたことがあるが、その際「サポセンは言いようで市民活動の利用であると認められ、料金が安いから利用した」と言われ、もったいない感じ、もやもやしたことがあった。
- ・もうもはや、市民活動の定義がかなり曖昧になってきている時代と思っている。例えばではあるが、利用料金はほかの市民利用施設と同じ水準にする代わりに、誰でも利用できるオーブンな場所にするのはどうであろうか。
- ・特に施設に用事がないても、ふらりと立ち寄るとたくさん市民活動の情報に出会い、こんな活動が世の中にはあるんだと、刺激をもらえる場所になるのではないか。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・1点目について、ブログには詳しく掲載しているものの、全部の事業報告をまとめたため文字ばかりの資料となってしまった。
- ・2点目の貸室については、私も個人的には同意する。施設ができた当時は、市民活動の人々が使える会議室がとても少ないのであり、市民活動限定のものが欲しいという要望で市民活動団体が優先して利用できる施設として今の運用になったと聞いている。
- ・ただ、時代も変わり、現在は民間の貸し会議室も増えてきた。サポセンも、市民活動での利用に限定せず、誰でも使える施設になつてもいいのではと個人的には考えている。
- ・ちなみに、市民活動についての判断基準は基本的には条例に基づいてはあるが、利用してもらうために公益性の有無についてなるべくヒアリングで聞き出すように心がけている。例えば、趣味のサークルでの利用でも、ヒアリングによって公益性があると判断できれば、利用いただいている。

[高浦委員長]

- ・需要の程度はあるが、仮に営利的な活動も含めたとしても、ものすごく予約が入ってしまつて本来市民活動をされている人が借りにくくなってしまう状況はあまり起こりにくいと思うが、いかがか。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・料金設定によると考える。1時間400円と他の市民利用施設と比較しても低い料金設定になっているので、市民活動以外の目的でも借りることができるとなれば、予約が増えることが想定される。
- ・企業だと、民間の貸会議室のようにサービスが行き届いている会議室を使い慣れていると思うが、ここは、ほぼ自分たちでセッティングもしてもらう。その点でのすみ分けはあるかとは思うが、このままの料金では、料金が低いという理由で借りる団体が出てくると思う。

[佐々木副委員長]

- ・どういった属性の方の利用が多いのか気になっていため、個人から法人、一般社団法人やNPO法人も含め、様々な属性の方が利用していることが分かり良かった。そしてサポセンに来るワンストップで様々な支援を受けられる仕組みもあることがわかりとても学びになった。ニーズをきちんと引き出して事業化するというサイクルも作られているところも素晴らしいと感じた。
- ・1点質問がある。実際サポセンを運営している中で、例えばもっとこうあったらいいのに、あるべき姿に近づくためにもう少しこうしたい等、課題や創造的な部分について、現場感を感じているがあれば教えてほしい。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・施設自体が地下1階地上7階もあるため、施設管理が負担に感じている。

- ・また、もう少し地域に出ていくことができたらと感じている。実際に、過去には、被災をしている荒浜地域に市民活動サポートセンターは全然来ないと言わされたこともあった。また、サポセンを利用しづらい地域の団体の情報はなかなか入ってこない現状である。
- ・また、そもそも 109 万人いる仙台で、市民活動支援施設がサポセン 1 か所だけでいいのか疑問に思うことはある。もう少し地域にも同様の役割を担う施設があって、きめ細やかな支援ができればいいのではないかと思う。地域に根差して活動している団体を細かく把握できていないため、例えばまちスポのような施設とも連携したい。そういう拠点が各地域にあることが本来は理想なのではないかなとも感じる。

[佐々木副委員長]

- ・サポセンを本拠点として、すでに地域で活動されている方と連携していく。今あるリソースの中で素晴らしい展開ができるのかなと、聞いていてとても納得感があった。

[佐伯委員]

- ・青葉区本町にサポセンがあったときから利用し、広瀬通りに移転した後も全館貸切りイベントに団体として参加したが、その時のイベントは結構にぎやかだった思い出がある。
- ・貸室についても 5 年ほど団体として利用させてもらったが、毎回借り終わったら次の空き状況を確認し、自分たちの予定と照らして申し込むという形だったので、少し大変だった。
- ・また、団体登録をする時が大変だった記憶もある。きちんと毎年会計報告を確かめられたような気がする。非営利活動であることの確認だったと思うが、利用している身としては来年も使えるかどうか心配しながら使っていた。
- ・3 点質問したい。1 点目は平成 30 年にリノベーションを実施したとあるが、内容とその結果何か効果があったのか。
- ・2 点目は、指定管理制度導入について、他に競合している団体があったのかそれとも一つしかなかったのか。
- ・3 点目は、実施事業の「相談事業」で「市民活動の始め方・続け方」について、改訂内容を伺いたい。
- ・市民が相談する第一歩がサポセンではないかと思うので、利用しやすい誰でも入りやすいような雰囲気が必要と感じるが、実際は 1 階が何をやっているのか、入口がリノベーション前より正直言ってわかりにくくなつたと感じる。入りにくい気もするので、もっとインパクトがあつてもいい。サポセンの黄色のイメージカラーはとても明るくていいと思うが、サポセン自体が何をしているかっていうのがもう少しわかると、相談に入る一般の方が増えるのではないか。

[事務局（市民活躍推進課長）]

- ・平成 30 年に行なったリノベーションの主な内容は、1 階の部分については、壁面をホワイトボードにして様々なイベントに使いやすいように変えたこと、受付カウンターの位置を変えたこと、来館者の方の動線を考慮した形でカウンターの位置を移動したこと、入口の前に総合案内を新設して貸室の鍵や備品の貸し出しの案内機能を設けたことなどがある。1 階以外ではリノベーション前に 1 階にあった情報サロンを 3 階に集約した。5 階にある交流サロンについては、より使いやすくするため、各テーブルに電源コンセントを置き、利用者のニーズに合わせた利用を可能にし、個人で作業が集中できるスペースを設け、机や椅子の組みかえを可能にし、ある程度他の団体と会って区分けができるミーティングスペースを設けた。
- ・リノベーションをした後に 1 階にイベントの紹介コーナーを設け、定期的に団体にご利用はいただいてはいるが、なかなか入りにくいといった佐伯委員のようなご感想もあることは、こちらとしても受けとめたい。
- ・指定管理者の競合については、前回の指定管理者選定は公募制を採用し、令和元年 8 月の公募の際の応募団体は特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター 1 社だけであった。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・リノベーションの効果としては、特にフリースペース、交流サロンの利用者数が増えている。実際に全ての席で電源を使ってパソコン等を利用ができるようになり、Wi-Fiを使って作業ができるようになったという利便性の向上が要因と考える。その他には、1階のチラシラックのチラシが減る率がかなり向上した。ふらっと施設内に入ってくる人が増えたことに加え、分野ごとに配置していたチラシを日付順で並べたことで、興味がない分野のチラシも目に入るようになったのではないかと考える。
- ・「市民活動の始め方・続け方」は相談対応の時に主に使っている冊子であり、難しい言葉を簡単にすることや、法律改正に合わせて、大体4～5年に1回は改訂をするようしている。
- ・貸室申込の煩雑さは理解しており、毎回書いていただく申込書について定期利用団体には書く項目を減らしてはいるものの、どうしても他の施設と比べると書く項目が多いのではないかと感じる。
- ・会計書類については、ロッカーカレターケースを利用する場合は、1年に一度団体紹介シートを出してもらい、会計の数字についても書いていただくことになっているため、おそらくそのことかと思う。

[高浦委員長]

- ・令和10年度くらいから仙台市の新本庁舎で供用が始まるというスケジュールもあるが、サポセンは引き続き現在の建物を使用するのか。或いは現在の建物と新本庁舎の低層部とで、二拠点を運営していくことになるのか。
- ・新しい庁舎の使用が始まった後も、新しい庁舎にはこうした市民活動の支援スペースはどれくらい入れていくのか、青写真みたいなものはあるか。

[事務局（市民協働推進課長）]

- ・今後も、現在の施設を利用することを今は想定している。
- ・新本庁舎における市民活動の支援スペースについては、本庁舎の建て替えの基本計画がホームページでも公表されており、二期にわかかれている立替工事のうち、二期目に完成予定の2階部分が市民協働のスペースという形になっている。二期目に完成予定の部分が実際に使えるのは令和13年度以降の予定と聞いている。
- ・新本庁舎で想定されている市民活動の支援スペースが実際に設置されるのか、設置された場合にどのような運営していくのかは本庁舎整備室などの担当部署で今後協議していくことになると思われる。

[庄子委員]

- ・長年運営される中で、いろいろ視点から網羅された取り組みや活動をされていることが分かった。私も何回かこちらを利用した経験はあるが、意外と知らないものだと感じた。
- ・1点質問があるが、運営をしていく中で、事業プランが停滞した時や新たに何か活動を考えたり新たな発想で考えたりする際、どのように議論して新しく生み出しているのか。
- ・あとは、最近は社会貢献をする企業も増えている中で、高浦委員長も最初に言っていたように、何か市民活動といろいろとマッチングする仕掛けみたいなものが増えていったらしいと思う。

[事務局（市民協働推進課長）]

- ・サポセンにおける事業については、当課と市民活動サポートセンターで適宜意見交換をして決定している。今回の議題である機能のあり方についても、方向性は固まっていないが、いろいろと検討している最中である。
- ・その検討の中で、地域の企業が積極的にその地域づくりに参加することで地域が良くなり、その企業も良くなるという、地域企業のCSVを促進することが重要ではないかという話が出ている。
- ・具体的には、企業が社会のニーズや問題に取り組むことで、社会価値の創造に取り組むとと

もに企業の自身の成長や企業価値を高めることを目指す、企業の社会貢献と本業をビジネス融合させるというような、社会課題の解決と企業の成長と企業価値を高めることの両立を目指すような考え方である。

- ・企業のCSVというものを、地域の企業にも促すことが求められているのではないかという意見が意見交換の中で出ている。ただし、CSVというのは人材やそのコストがある程度潤沢にある大手企業はともかく、リソースの確保が厳しい地域の企業が取り入れるのはなかなか難しい現状もある。こうしたハードルを中小企業や地域の企業が乗り越えるためには、すべてを1つの会社だけで完結させようとするのではなく、その同じ課題解決に取り組むパートナーを見つけることも大切ではないかと考える。そういったときに、ハブ的な役割を市民活動サポートセンターが担っていくことが必要ではないかと考えている。

[高浦委員長]

- ・事業者視点で様々なまちづくりに関わりたいと考えている若い経営者も増えている。サポセンがそのような方たちの会議の場で使えるとよりよい議論が進んでいくと思う。また、様々なNPO団体の声も反映していきやすいのではないか。

[傳野委員]

- ・利用者の要望に応えるべきものすぐ察知して、対応を考えているサポセンには感心させられる。市民活動のためにサポセンがあるという仙台市の文化が素晴らしい。仙台市の意識は、他の都市へ行った時にも感心させられるくらいである。
- ・ただし、先ほどの企業の話とサポセンの役割とはちょっと繋がらないのではないかと思う。言っていることはその通りであるが、仮に企業が頻繁にサポセンを使うようになれば、一般の人の利用がそれだけ圧迫されることにつながる。これからどんどん建物が増えるのであればともかく、実際は本庁舎や区役所の建て替え等、多額の改修工事に費用がかかっているのが現状である。
- ・企業の社会貢献における協働を支援することも必要だが、市民や町内会にも目を向けて、協働事業の促進や人材育成を進めていただきたい。
- ・また、自分を含め泉区民からはサポセンは距離的に遠くなかな利用しづらい。今ある市民センターなり、或いは新しく整備を進めている音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設等に市民が使える部屋があると良い。

[高浦委員長]

- ・町内会含め、地域団体も重要な協働まちづくりの担い手であることを考えると、市民センターを含め、活動の場の整備が総合的に必要だと感じた。
- ・1点質問であるが、広い意味での出前のアートリーチ的な活動かもしれないが、市民活動サポートセンター長から市民センターに出かけて、町内会活動や公益的な市民活動に関心を持っている人々の支援は行っているのか。具体的には市民センターの職員を介してや、或いは市民センターの職員に対する講習会などはどうか。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・現状では、中央市民センターにしか訪問できておらず、地区の市民センターには訪問できない。
- ・町内会も含め、地域密着の団体がより市民活動の視点を持って活動をしていることは認識しているため、市民活動団体と町内会で分けるより、同じ社会地域のために活動している先として包括支援が必要ではないかなと個人的にも感じている。

[傳野委員]

- ・地域の施設ということで言うと、今、学校は生徒数の減少で空き教室が増えている。例えば、泉パークタウンにある高森東小学校は今年の新入生が35人で、かつては1学年3クラスあったが現在は1クラスとなり、結果2クラスが空き教室となっている。築30年の鉄筋コンクリートの建物なのに勿体ない。

- ・今はどこの団地も人口減少で、増加しているのは高齢者率のみである。空き教室を例えれば「仙台市立公民センター」といった名前で貸すことができれば、費用もかけずに設備の整った貸室が出来上がる。コストをかけずに市民活動を促進することも、将来に向かって取り組むべきではないか。

[佐々木副委員長]

- ・先ほどCSVの話があったが、「市民協働推進」「サポートセンター」という言葉はどちらかというと「協働」という意味合いなので、コレクティブインパクトの方がふさわしいのではないか。CSVとなると企業が主体になり、収益化が必ずついてきてしまい、協働したくとも収益化ができないと協働しないという話が企業側から出てくる懸念がある。また、CSVだとサプライチェーンの中で企業の利益を出す必要も出てくる。
- ・一方で、コレクティブインパクトは企業やと市民、NPO等が同じ目的を持って地域の課題解決や、何かを創造するために、一つの同じ目的を持って各々が持っているリソースや力を生かしながら達成していくことである。企業にとっては長い時間がかかるかもしれないが、地域が良くなれば、結果的に企業もよくなると信じながらやっていくコレクティブインパクトこそが「協働」ではないのか。

[石田委員]

- ・自治会や町内会の担当は地域政策課だと思うが、担当課同士のコミュニケーションは支援の中でも一緒にしているのか。担当課同士のコミュニケーションがうまくいくと支援の仕方も広がるのではないか。

[事務局（市民局次長兼市民活躍推進部長）]

- ・市民局の市民活躍推進部にこの市民協働推進課と町内会を所管している地域政策課があり、同じ執務室で距離的に近いこともあり日常的に意見交換をしている。
- ・当課の協働事業は様々な団体に向けたものが多いが、町内会含め、地域の皆さんがどのように事業を進めていくのかが重要であり、実際に助成制度を募集すると必ず町内会を含んだ申請が来ている。町内会が非常に鍵になるという認識のもと、地域政策課ともきちんとやり取りをして周知しており、事業をより良くするように努めている。

[加藤委員]

- ・事業と運営をスタッフが兼務していると伺ったが、そもそもサポセンの貸室や利用実績について、目標としている相談件数が来た場合、サポセンは機能できるのか。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・令和元年度の実績をもとにした目標数値であり、対応できる数値と認識している。団体の中には、会議室を貸してくれればその他のサポートは不要と申し出てくる団体もいれば、受付で対応する中で相談してくる団体もいる。すべてを細かくサポートするのではなく、団体のニーズによってメリハリをつけながらサポートしていくことで対応可能と考える。

[加藤委員]

- ・自分が長町で活動していると周りにサポセンを利用している人もいるが、サポセンを知らずに活動している団体もまだまだいると感じる。相談件数が爆発的に増えることも考えられるので、先ほど話があった各地域に拠点をという話も念頭に置きながら、当委員会でも議論ていきたい。

[高浦委員長]

- ・本日の議事は以上としたい。
- ・最後に、次第「3. その他」について事務局からは特になしだが、皆さんから何があるか。(特になし)

[事務局（市民局長）]

- ・お忙しい中、お集まりいただき、様々ご議論をいただき感謝申し上げる。
- ・歴史的に振り返らなくてもいいという議論もあるかもしれないが、仙台市の市民協働の流れは脱スパイクタイヤ運動がまず発端となり、平成11年にこの市民活動サポートセンターができ、NPO法ができ、加藤哲生さんたちが一時代を築いた歴史がある。そしてその次に震災があり、NPOの力というのが見直されたこの地域で、次の時代市民協働はどうあるべきなのか、市民活動サポートセンターはどうあるべきなのか、我々もまだはっきりとは見い出せてはいない状況であるが、今年度あと2回あるこの委員会で、皆さんからご意見を頂戴できればと考えている。
- ・結びになるが、改めて御礼を申し上げる。

[事務局（市民活動推進係長）]

- ・本日の委員会はこれにて終了とさせていただく。 一了一

〈議事録署名人〉

高浦 康有
[委員長]

佐々木 純子
[署名人]